

潮流

2013
11月号
No.234

大津島(平成25年 10月1日現在)
人口 359人(男155人 女204人)
高齢化率 71.9%

8月23日 山本 繁太郎 山口県知事来島

「明日を拓く島づくりミーティング in 大津島」開催

～ふれいセンターの様子～



～しまのわ見学～



～大漁旗でお出迎え～



八月二十三日。山本県知事が、来島し「明日を拓く島づくりミーティング」が開催されました。山口県知事の来島は、十二年ぶりの事でした。当日は天候にも恵まれ、木村市長を始め、来賓の皆様と一緒に島内を視察されました。おためし暮らし住宅「しまのわ」や、大津公民館にて大津婦人会の活動や、垣の内農園の事例発表など。海の郷にて昼食後、大津島ふれあいセンターで、意見交換会を行いました。

～大津公民館の様子～



大津公民館では、垣の内農園で収穫された小麦を使ったお菓子が出されました。山本県知事は、おまんじゅう・かぼすかりんとう・菓子パンを全て完食して下さいました。昼食時には、手打ちうどんも、食べていただきました。

最後は、紙テープでお別れ…



船出の別れは、いつでも切ないものがあります。山本県知事、また是非大津島へおこし下さい。お待ちしております。

大津島の人々 (2)



石田 ナミエ(いしだ なみえ)さん
大正15年生まれ。今年米寿を迎えた。現在も、回天慰霊祭(11月)に、育てた花をお供えし続けている。

Q、生い立ちをお聞かせ下さい。
A 馬島で生まれ、馬島尋常小学校へ六年。大津尋常高等科へ二年通いました。その時、女性の同級生が十一名いました。その後は、私達の代からきた「青年学校」に二年間通い、お作法や、料理、裁縫などを学びました。
その後は、山口へお百姓さんの手伝いへ行き、その後、大津島の呉海軍工廠魚雷調整部に入りました。
Q、ご結婚は?
A 馬島の人としました。兵隊にでる時に「待つちよれよ」と言われ、終戦まで、帰りを待ち、結婚しました。

Q、海軍工廠では、どんなことを?
A、最初は、魚雷に使われる細かい部品の洗浄をしていました。その後、高等官の炊事係りとして、働いていました。
Q 戦時中の大津島は、どんな感じでしたか?
A、回天の工場の周りは、一般の人間は立ち入る事は出来ませんでした。
昭和十九年〜二十年は、食料が配給となりました。配給だけでは、足りませんでした。島では麦を作り、「飯と一緒に炊いた」大麦飯を食べていました。おかずは、野菜も自分で作っていたし、漁師もいましたから、魚もありました。なので、島で栄養失調になり、飢え死にする者はいませんでした。お腹が空いて泣くような者もいませんでした。
Q、長生きの秘訣は、なんですか?
A、よく働いて、一生懸命生きる事。最近痩せているけど、病気で腫れるより良い(笑)
(聞き手:文 大友)

日が短くなり、寒くなります。秋の夜長、如何お過ごしですか? 外出が少なくなりがちですが、どうかお元気で!!!



大気も澄んで朝露や虫の音に山には、アケビの実が熟し、秋の「佗び」「寂び」を感じるこの頃です。
芒(すすき)



あけび

天高 山道の

安達照子

季節の俳画
安達照子

海

の街道・八
【大内義弘・前】



文=末兼正純

一三八九年三月五日、室町幕府随一の権勢を振るつた三代將軍足利義満は、百余艘の船を連ねて兵庫を出港し、西国遊覧の旅に出た。十一日に厳島神社を参詣し、下松港で一泊して十三日に三田尻港に着く。周防・長門・豊前・石見四力国の大名大内義弘は、白砂青松の「たかはまといふ浦ばた」に、総檜造りの宿を新築して義満一行を迎える。
時に、足利義満三二歳、大内義弘三四歳であった。豪華な歓待にご機嫌の義満は、義弘を京に來ないかと誘う。驚いたことに義弘は直ちにこれを受け、翌日五十人の供とともに一行の船に乗り込み、そのまま四年間にわたって京都で暮らすことになる。
京都暮らしの前半二年間は、和歌を熱心に学んで歌人として名を成すなど、平穏なものであった。
一三九一年暮、全国六十六カ国のうち十一カ国を領する大名の山名氏が、義満のイジメに抗して反乱を起こす。明徳の乱である。
わずか五百騎で要衝を守る義弘の陣へ、数千の山名勢が押し寄せた。義弘は自ら血まみれになって死闘を繰り広げるが、大軍を擁する義満の本陣は動かない。義弘は憤怒し「義弘討死仕ったならば、たれか義弘ほどに身を捨てて支え戦い候べきや」(明徳記)と、本陣に怒鳴り込む。様子見をしていた諸將の大軍は参戦せざるを得なくなり、戦いは一日で終わった。
義満はこれを高く評価し、義弘に和泉と紀伊の二国を与える。破格の厚遇であった。

・大津島で石材加工工場経営
・若潮の会会員

もう三十年も前：昭和の時代のことです。私は学生時代、休みになるとよく寝袋を持って野宿の旅行をしていました。あれは大学二年生の夏、原付バイクで北海道へ渡り、あてもなく思いのまま道内を回る中で、いろいろな人とあたたかい出会いとふれあいを経験しました。

今も変わっていないかも知れませんが、当時、北海道をバイクや自転車ですり回ったり、カニ族といって大きなリュックを背負って、鉄道で旅したりする若者たちは、駅を宿にしている人が多くいました。私もその中の一人で、駅舎で毎晩のように日替わりで旅仲間と出会い、遅くまで話をしたり炊飯器持参の旅人にご馳走になったりと、思い出はいっぱいあります。

そんな中、私にとって今でも忘れることのない、人の優しさやあたたかい思いやりを感じた出来事があります。あれは：強い雨が降りしきり、バイクで移動することも出来ず、一日中駅のベンチで座っていた時のことです。夕方近くになって一台の車から高校生ぐらいの男の子が声をかけてくれました。「僕の家泊まりませんか。」：学校帰りに見かけた私のことが家族の話となり、ひとと駅離れたところから迎えに来てくれたとのことでした。お言葉に甘えてお邪魔すると、おいしい食事と温かい風呂をいただくだけでなく、洗濯までして下さいました。そして、その夜は遅くまで家族の方々と話し込んだ思い出があります。翌日、出発する時にお母様から「これで実家に連絡するように。」と言って、十円玉をたくさんいただきました。子を持つ親心でしょうか。今、自分は親になり、あの時のお父様と同じぐらいの年齢になっていますが、なかなか出来ることではないと思います。

北海道は広く、人の心もあたたかく、土地柄を感じた出来事でした。と同時に、『昭和』という時代も、今となれば懐かしく、そしていい時代だったなあと思うこの頃です。

知っちよるかね

芋を見よ
子を太らせて
親やせて
甘くなったり
辛くなったり
伝さん

「通い慣れたる...」

文＝松本 千恵子

もう半世紀も前のこと。まだようなのを書いて貼り出しよ。工廠の名残のコンクリだらけ。達筆で半分位しか分の道から始まり、天ヶ浦を通。からんし、古臭あ事のようにも。雑木林の細い道を本浦峠ま。思うちよったが、次には何が書。で、約一里が私らあの通学路。いてあるじゃろうかと、実は楽日頃は、お百姓さんか私達学生。しみでもあったね。しか通らん道じゃったが、たま。叱られても買ひ食いをしたには思いもかけん人に会うこ。し、アケビや筍を採ったり、化ともあってね。時には、大荷物。けが出るとか、赤子岩が泣くちを担いだ富山の置き薬屋さん、。ゆうてヒヤヒヤしたり、長い道また時には、光満寺の先々代の。のりもけっこう楽しみながらご住職。御勤めがある日は、ま。通うたものいね。だ暗い内に本浦を出て、私らあ。ある秋の日、本浦峠を登り切。とは。天ヶ浦近くで会いよった。って、ふと顔をあげたら、目にね。会うと一言声を掛けてくれ。眩しい位の満月、その光が海によったが、足の速い人で。こっ。長く照り映えて、道端には薄紫ちがどぎまぎする内に、姿は見。の野菊が白う浮かんで見えて。えんようになりよった。美しかったねえ。

カーブミラー清掃を実施



文＝交通安全協会 大津島支部

10月22日(火)に交通安全協会により、島内のカーブミラー清掃が実施されました。島内には、42枚のカーブミラーが設置されており、今回は9人が3班に分かれ、全てのカーブミラーを清掃しました。清掃後のカーブミラーは、まるで新品の様に、太陽の光を反射していました。この活動は、今後も年に1回程度、継続的に実施していきたいと思っています。

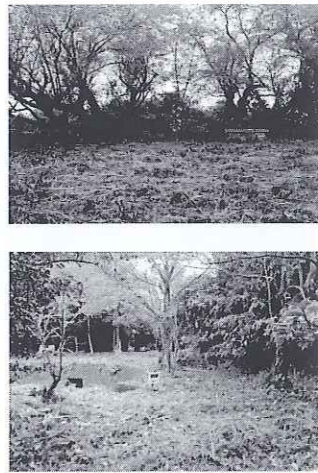
大津島の最新情報 更新中!
http://i-8996-ozsima-jugon.jp/

「砲台山草刈りを実施」



文＝大津島地区観光協会

10月5日(土)に大津島観光協会とコミュニティ推進協議会の共催で、兵舎跡・山頂周辺の草刈りを実施しました。先日の「明日を拓く島づくりミーティング」において、県が職員を派遣して、砲台山整備のための竹の伐採等をお手伝い頂くことになりました。11月7日(木)には、県職員、市職員、コミュニティと力を合わせて、山頂の砲台跡付近の木や竹を切って見晴しをよくする環境整備を行う予定にしています。



ひろしのつぶやき
大泊は現在、造船所と二戸の住家となつて居るが、私の子供の頃はもつと広くにぎやかな活気のある集落であった。現在の道路の位置には住家が十戸余り並び、本道路は山の中腹を通り、それより下方は棚田がある特別な集落の型をなして居た。
住人は島外の来住者、採石業や船乗を主業とし、副業として食品雑貨屋一戸、豆腐屋2戸、散髪屋一戸、当時より古くからの造船所があった。子供の頃はもつと広々とした遊び場があった。それ以外に天然の良港としての船溜りとなつていた。ここを基地にした機帆船が五、六隻居て、居住は船であるが集落の住人と同じ様に集い、もやいの風呂、もやいの井戸などを特に大事にし、金比羅講や頼母子講(たのもしこう)など、お互

【思い出すふるさと】
文＝屋野 廣志

いの絆を強く結ぶ行事もあつた。中央の小高い山を金比羅様と云い、社も在り祭りも盛大に行われていた。船乗業や採石業では生活面も金銭面も裕福ではなかつた。それを助け合う「頼母子講」は信頼と律儀の元、厳しい規約の中でおこなう金銭の貸借である。創設者を親とし、入会員(子)を二十名〜三十名を募り受け、金高三十円ならば一口一円か〜一円五〇銭を、毎月期日を定め創設者に持ち寄り、入札により借用権を貰う。入札時間も何時何分や種々の規則を守り、借入者は保証人二名以上証書一札覚書きを置き、次回の集金、集金の世話をし次回に送る。当時その金額は大変な価値のある事で、新造船、船の修理、船売買などその金額及制度はお互いの発展に扶助に役立ち、船乗り仲間同士の大きな絆でもあり、集落外の者の応援も大きかつた様だ。

～事務局からのお知らせ～
移動図書館<やまびこ号 Jr.>
11月20日(水) 12月10日(火)
●馬島巡航待合所 11:30~12:00
●刈尾巡航待合所 12:20~12:50

編集後記
「毒があるから食べちゃいけないよ。」赤くて、おどろおどろしかったので、口に入れることはありませんでした。大津島で、白い花バージョンを初めて見ました！花言葉は「再会」、「また会う日を楽しみに」。彼岸花と名付けられた由縁でしょうか。六郎万淳一

大津島地区社会福祉協議会よりお礼
平成25年度善意銀行へのご寄付について

- 預託者 足立 克也 様
亡母 足立 芳子 様の香典返しとして
金3万円 (市社協 6,000円 大津島社協 24,000円)
- 預託者 御手洗 彰 様
亡子 御手洗 由比子 様の香典返しとして
金10万円 (市社協 20,000円 大津島社協 80,000円)
- 預託者 河島 幸子 様
亡夫 河島 信正 様の香典返しとして
金10万円 (市社協 20,000円 大津島社協 80,000円)

ありがとうございました。